

私のすすめるこの1冊

岡田 直樹 (美術科 教授)

『古筆』

小松 茂美 (著)

仮名の古典は、古くから「古筆」と呼ばれていた。古筆ということばは、本来「古人の筆跡」ということから、今までに書かれた古い筆跡すべてを指すことになる。しかし、今日われわれが古筆と呼ぶのは、主として平安朝の紀貫之が活躍した十世紀から鎌倉時代の伏見天皇の十四世紀までの約400年の間に書かれたものとするのが一般的である。丁度女手(かな)が発達し、完成した時代に重なる。また古筆は主として和歌を書写したものが多く、本来の姿は、その殆どが卷子本か冊子本であった。それらは贈答を目的として、美しい料紙に書かれた調度的作品であった。

室町時代ごろから、古人の筆跡を尊重し、鑑賞する気風が盛んになった。茶道の興隆とともに、床の掛物とするために、多くの古筆が分割され、原形を失った。これらの断片を「切」とか「歌切」と呼ぶ。江戸時代には古筆切を集めて、アルバム仕立てとする「手鑑」が流行した。

これらの古筆を尊重し、鑑賞する気風の興隆とともに、誰がその古筆の筆者であるのか、筆者推定が盛んになるが、仮名の古筆で筆者が特定されるものは極めて少ない。大部分の古筆には、伝承筆者が付せられているが、この「伝」は古くからのものもあるが、江戸時代の古筆鑑定家によるものが多い。書

写年代に合致する能書家が伝承筆者名として付せられていることも多いが、例えば高野切は三人の能書家の寄合書であるにもかかわらず、一種・二種・三種のいずれも「伝紀貫之」とされているなど、明らかに誤りと考えられるものも少なくない。

本書『古筆』は、古筆学者・美術史学者で東京国立博物館に勤務した小松茂美が、古筆をさまざまな角度から解説したものである。私は特に「古筆の筆者推定とその方法」に感銘を覚えた。江戸時代の古筆鑑定家の筆者推定は基本、双方を見較べるであった。この手法は一見、幼稚なようであるが、見る人の鑑識眼によっては、結構的を得ていることも多い。しかし、先述の高野切のように明らかな誤りも散見される。今日の古筆鑑定は単に印象的な比較と違って、書風・書体・墨色・紙の古さなどを必須とし、更に文献的・科学的な方法も加味して行われる事が多い。特に小松茂美は「字母使用の頻度率調査による個性の把握」という独自の判定方法を駆使し、本書の中でも「高野切第二種」をはじめ、いくつかの古筆に独自の筆者推定を行っている。

本書は、書を志す方はもちろんの事、それ以外の方にとっても、日本独自の文字を用いた、文化遺産ともいえる仮名の古筆を理解するには最適であると考え、推薦させていただいた。

8月22日オープンキャンパス《報告》

美術領域専攻 1 回生企画展「交差展」

8月22日(火)のオープンキャンパスでは、図書館にも1,000人を超える見学者が訪れ、大変盛況でした。

また、同時に企画展示室で開催されていた美術領域専攻一回生企画展「交差展」もたくさんの方が学生の作品を鑑賞されていました。美術領域の専攻別ガイダンスに参加された方も学生の案内のもと、展示室を訪れ、授業や制作に関して様々な質問をされていました。

企画展は8月22日(火)～24日(木)に開催されており、23日以降も、様々な見学者が訪れていました。



(企画展ポスター：1回生の作品)

《学生による解説》
オープンキャンパス見学者の熱心な質問もありました。



学内の樹木を描いた作品



書やイラストレーションなどの作品

リクエストと投票で話題の本を読もう！

学習研究以外のリクエスト本を一定期間掲示し、皆さんの投票で購入する本を決定するリクエスト企画をしています！

- リクエストは随時受け付けています
 - ・学習研究目的のものは原則として購入します。
 - ・学習研究以外の目的のものは、毎月10日までに受け付けた分を15日～月末に館内で投票し、票の多かった本を購入します。
- ※結果によっては購入できないこともあります。

リクエストや投票にどんどん参加してください！

読みたい本に
投票しよう！
(1日1ポイントまで)

9月の投票期間は
9月15日(金)～9月30日(土)です。
※図書館1階渡り廊下・北館2階研修セミナー室前に展示しています。

リクエスト方法については、
館内掲示をご覧ください



雑誌の製本作業について

8月から11月上旬(予定)まで、南館1階・西館3階にある雑誌のうち、2015年～2016年に発行されたものを中心に、一部の巻号が製本作業のため利用できなくなります。製本後はすべて西館3階(書庫)に並べますので、そちらをご利用ください。

※製本対象リストを図書館ホームページに掲載しています。

学修相談カウンター 8・9月はお休みです

10月には再開予定ですので、
どんどん利用してください!



児童書コーナー(南館1階)

幼児教育科主催



学生による絵本のよみきかせ

日時：9月25日(月) 15:00～
絵本：『もこもこもこ』など

今月の絵本カード(学生作)

『にじいろのしまうま』

作：こやま峰子 絵：やなせ たかし 出版社：金の星社
※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。



有効期限の延長について

2017年9月末で本学を修了する予定の方(科目等履修生・研究生・特別聴講生を含む)は、貸出可能な有効期限が9月11日(月)までとなっているため、返却期限日も9月11日(月)になっています。資料を借りている方は、忘れずに返却してください。

ただし、9月11日(月)以降も研究を継続する場合に限り、有効期限を9月30日(土)まで延長することが可能です。カウンターにて手続きして下さい。なお、図書館への入館・閲覧については、手続き不要です。(9月30日(土)まで利用可能)

夏季休業に伴う長期貸出について

学部生：7月26日(水)～9月19日(火)
院生・教職員：7月12日(水)～9月5日(火)
【返却期限日】10月4日(水)
※卒業・修了予定者は9月11日(月)まで

職場体験終了報告

2017年8月23日(水)～24日(木)にかけて、附属特別支援学校から職場体験実習の生徒を1名受け入れました。カウンターでの貸出・返却業務などを体験してもらいました。

みなさま、ご協力いただきありがとうございました。

教育資料館 まなびの森ミュージアム

今月の逸品
「三角縁神獣鏡」
さんかくぶちしんじゅうきょう

詳しくはホームページの「今月の逸品」コーナーをご覧ください。展示をしていますので、ぜひミュージアムへ来てくださいね!



詳しくは…教育資料館 まなびの森ミュージアム
<http://manabinomori.kyokyo-u.ac.jp/manabinomori.html>

X線回折装置の再起動

高嶋 隆一

京都教育大学紀要. 2017, No.130, pp.85-94

1895年のレントゲンによるX線の発見以来、X線は原子の世界を研究する重要なツールとなっています。私自身は素粒子物理学の実験分野にいたためにあまりなじみのないものでした。原子の出す特性X線は数10keVであり、数MeVのエネルギーの信号検出に慣れた素粒子実験では微弱な信号で、使う技術が異なります。ただ最近では半導体を使った飛跡検出器の開発、運転が主な仕事になってきたため、比較的に近いところに移ってきた感じがあります。そこで、今までは物性物理や化学の先生方が使ってきて、廃棄寸前の装置の維持管理に興味を持ちました。

装置を物理学実験の課題として岩絵の具などの未知試料の分析に使うと、「本朱」は硫化水銀と簡単に分析できましたが、「天然緑青」「岩群青」あたりでうまく分析できなくなっていました。粉末回折装置なので一つの結晶格子から数10の反射面が発生して同定が難しくなってくるわけです。混合物は特に難しくなります。結局ヤフオクに出ていた蛍光X線装置を落札して原子の種類と組成の分析が可能となるようにしました。蛍光X線装置は液体窒素が必要なものだったので廃棄されてしまった物のようです。

原子物理学は実際の装置に触れない限り単なるお話で終わってしまいます。原子物理学を学生の皆さんが実感を持って学ぶために「X線回折装置の再起動」は必要なものだったと思います。特性X線は第一次大戦で戦死したモーゼレーの研究が有名で、あの名曲'chariots of fire'や'Jerusalem'と映画で描かれた世界が思い起こされます。映画のプロデューサーはあのドディ・アルファイド氏ですね。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 130号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/>にも公開されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00
■学内者のみ(9:00~17:00) ■休館(CLOSED)

2017年9月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

9/6 館内整理日

9/16 大学院入試(学外者来館不可)

2017年10月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

10/2 後期授業開始

10/14 編入学試験(学外者来館不可)

●京都教育大学附属図書館ホームページ

<http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページ (QRコード)

<http://tosh02.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>



京教図書館 News No.204(2017年9月号)

発行日:平成29年9月1日

編集発行:京都教育大学附属図書館

問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

